

かけはし

昭島市立富士見丘小学校 令和4年5月30日
校長だより No.24 稲垣 達也



令和3・4年度 昭島市研究奨励校 富士見丘小学校

学校教育目標

人権尊重の精神を基調に、予測不可能な課題に対峙し、協働して未来を創造する社会の一員として、持続可能な社会づくりに貢献する資質・能力を育むため、SDGsの目標に関連させた学習を展開し、心身共に健康で創造性に富み、調和のとれた児童を育成する。

目指す児童像

自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導くことができる児童

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 情報活用能力・言語能力・課題解決能力を働かせた探究的な学びを通して —

研究仮説

探究的な学びを通して、学習の基盤となる情報活用能力・言語能力・課題解決能力を育成することで、実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、答えのない課題に最善解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を身に付けることができる。

分科会

【情報】

育てたい資質・能力

ICTを活用した情報活用能力を育成し、論理的に思考し、新しい価値を創造する力を養う。

取り組みの重点

- 情報機器の基本的操作の定着
- 情報活用の実践力向上
- プログラミング的思考力の向上
- 情報モラルの定着

分科会

【言語】

育てたい資質・能力

学校図書館を活用し、すべての学びの基盤となる言葉の力を向上させる。

取り組みの重点

- 知的活動（論理的思考）としての言語力向上
- 感性・情緒の基盤としての言語力向上
- 伝え合いの道具としての言語力向上
- 学校図書館の利活用

分科会

【課題解決】

育てたい資質・能力

自分で考え自分の言葉で表現し、対話や協働を通して、納得解を生み出す力を育成する。

取り組みの重点

- 自主的な問いづくりの定着
- 実際に自分の目で見えるフィールドワーク
- 思考ツールの活用
- 次の課題につながる振り返り・自己評価

情報を主体的に活用
情報教育の充実

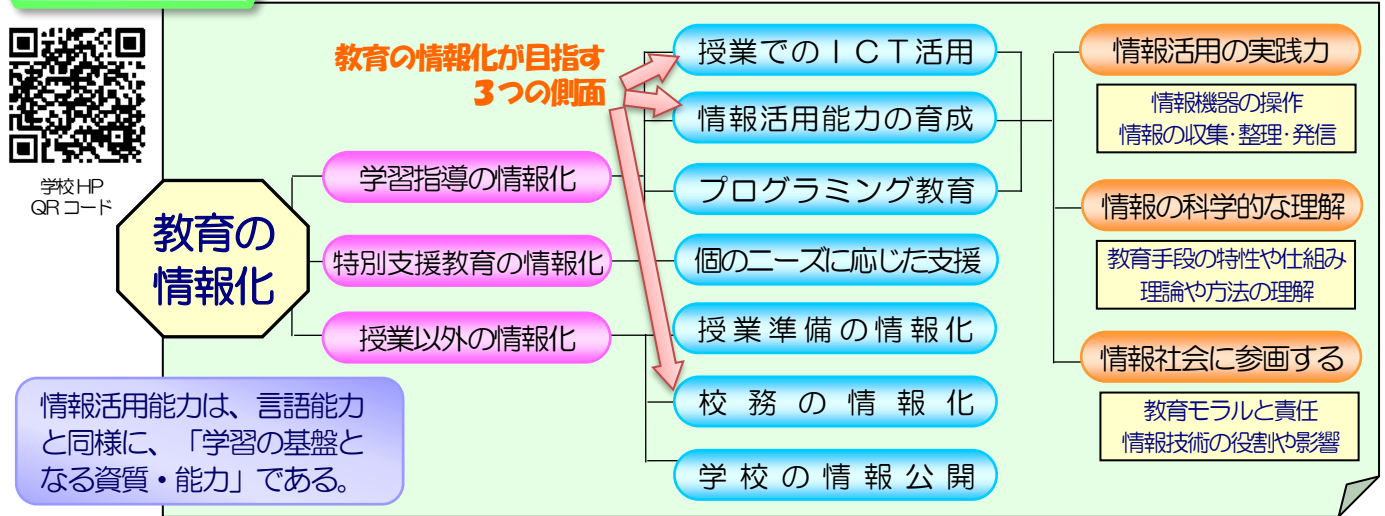
ICTを活用して
論理的に思考し
新しい価値を
創造する力を養う

「見方・考え方を深める」情報メソッド

ICTは学校教育に何をもたらすか！

感性を豊かに働かせながら、
豊かな未来を創造していく

個別最適化された学び、
協働的・探求的な学びの実現



新学習指導要領
改訂のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために

ICTが授業を変える！
新しい学びのスタイルを形成

授業でのICT活用 情報活用能力の育成
「確かな学力を向上させる授業」

- ① 発問や説明の言葉の吟味 子供に伝わりやすい言葉、教師の意図が明確な言葉の工夫
- ② 構造的な板書の工夫 学習課題やまとめを明確にした学習経過や思考の流れの整理
- ③ 授業展開の改善 授業テンポ、説明・思考・習熟のバランス、効果的な場面で活用
- ④ ノート指導の徹底 板書の工夫と合わせた授業改善によるノート指導の工夫・改善

各教科等の「見方・考え方を深めるツール」として

F・G・S・t 構想



- 1 Society5.0 という新たな時代を担う人材の育成
- 2 多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された教育の実現
- 3 子供たち一人一人の資質・能力を確実に育み、AIに代替えされない創造性を育成

「一斉指導による学び」「一人一人の個に応じた学び」「教え合い学び合う協働的な学び」などを推進し、子供たちが主体的に学習する「新たな学び」を創造する。

Smartとは、スマートシティのイメージですが、直訳すると、「賢い」「機敏」「小気味よい」「小粋」などなどの意味があります。

toolとは、「道具」という意味です。ICT 機器は、魔法の箱ではありません。何かを成し遂げるために使う便利な「道具」です。

【Smart tool の使い方】
先生は、「賢い教具」として、指導に活用します。
子供たちは、「賢い文房具」として、学習に役立てます。

言葉で論理的に思考
言語能力の育成

学校図書館を活用し
学びの基盤である
言語能力・読解力
を向上させる

「すべての学びの基盤」言語メソッド

《言語能力》

「知的活動（論理的思考）」
「感性・情緒」
「伝え合い（コミュニケーション）」

としての言語
の基盤としての言語
の道具としての言語

言葉の力

知的活動

言葉により知的活動が支えられ、深く思考するためには豊かな語彙が必要であり、言葉は、創造性や独創性を生み出す根源である。

感性・情緒

美しい日本語の表現やリズム、文学などの言葉により、深い情感や繊細な感受性など、豊かな感性や情緒が培われている。

伝え合い

コミュニケーション（通じ合い）の基本は、相手の人格や考え方を尊重する態度と言葉による意志や感情などの伝え合いである。



学校HP
QRコード

国語力と言語活動

国語力

言語を中心とした情報を処理・操作する能力

「考える力」「感じる力」
「想像する力」「表す力」

その基盤となる領域

「国語の知識」
「教養・価値観・感性等」

言語活動

「聞く」
「話す」
「読む」
「書く」



「思考」

- 体験から感じ取ったことを表現する。
- 事実を正確に理解し伝達する。
- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- 情報を分析・評価し、論述する。
- 課題について、構想を立て実践し、評価改善する。
- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。



- ・ 語彙を豊かにする → 学習指導のあり方を変えていくこと
- ・ 読書活動の推進 → 学校図書館の活性化
- ・ 言語環境の整備 → 活字に親しむ学校づくり（掲示物 etc）
→ 正しい言葉遣い、丁寧な文字 etc

《言語活動の手だて》

学校図書館から教育を変える 本校の学校図書館が果たす「3つの役割」

学校図書館は、読書を通じた豊かな心の育成とともに、確かな学力の基盤となる重要な役割を担っています。学校図書館が育てる力は「生きる力」に資するものであり、生涯にわたる学習の基盤形成につながるものです。そのため、本校の学校図書館には、次の機能をもたせています。

読書センター

想像力を培い、学習に対する興味関心等呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場。

学習センター

子供たちの自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたり、探究的な学習をする場。

情報センター

多様な学習資料やICT環境で児童や教職員の情報ニーズに対応したり、児童の情報収集・選択・活用能力を育成したりする場。

「学び方を学ぶ学校図書館」の力を活かす

つまり、学校図書館は「本に親しむ場」であるとともに、各教科等の授業における課題解決的な学習、探究的な学習、新聞を活用した学習等を通じて、子供たちの「言語能力、情報活用能力、問題解決能力等の育成を支える場」であり、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤なのです。

興味・関心等に応じて主体的に学習内容の背景を探ったり、学習の到達点を認識したりする。

児童自ら問いを見い出して、解決したり、自己の考えを形成し表現したりする。

推論する力や見通す力などを身に付け、これまで経験したことのない状況にも対応できる。

未知の課題に挑戦する
探究学習の充実

自分で考え
自分の言葉で表現し、
対話や協働を通じて
納得解を生み出す

「学びの本質を変える」探究メソッド

探究学習とは、答えのない問いに向き合い、自らの可能性に気付く学びである。目的は、自らの課題を見付け、粘り強く課題を探究し、協働しながら新しい解を創造していく資質能力を育てることにある。



探究学習で育てる能力



探究学習とは、自ら課題を発見し、解決するためのプロセスを体験しながらスキルを習得していくことであり、自己の在り方、生き方を考えながら物事の本質を探り見極めることで**実社会に通用するような資質・能力を育てる学習**のこと。

- 1 探究学習とは、問題解決的な活動を**発展的に繰り返す**一連の学習活動。
- 2 目的は、資質・能力の育成。
- 3 調べ学習は、探究の中にある一つのプロセスとも考えられる。
- 4 探究活動を、学びの型(フレームワーク)を習得する機会として捉える。

探究学習の特徴



学校HP
QRコード

探究学習は、児童の自発的な疑問から始まる。児童が生活の中で「なに」「なぜ」「どうやって」など疑問を持つことから始まり、疑問を解き明かそうとする学習である。疑問を解き明かすためには、「**課題の設定**」→「**情報の収集**」→「**整理・分析**」→「**まとめ・表現**」→「**振り返り**」→「**新たな課題の設定**」という**サイクルを繰り返す**ことになる。

探究サイクル



発展的に繰り返す

課題設定

[入口の簡単さ]
気軽に思える簡単な問い
[解釈の多様性]
懐の広さがある問い
[深掘りの可能性]
追求できる深さがある問い

情報収集

[思考ツール]
チャート・マップ etc
[図書館・ICT活用]
アナログとデジタル
[フィールドワーク]
調査・研究・実験・観察

整理分析

- ・問題状況における事実や関係を把握し理解する。
- ・多様な情報の中にある特徴を見付ける。
- ・**事象を比較、関連付け**して思考、課題解決する。

振り返り

[言語化による内面化]
学びの成果を体感
[観点を決めて対話]
事実、変化、比較、理由、抽出

探究学習のポイント

- ① 「問い」を自ら立てているかどうか
最大のポイント。調べ学習は既に課題が設定されているが、探究学習は**自ら疑問に思ったことを「問い」にし、それに対する「仮説」を立てるという部分が不可欠**である。
- ② 探究の「スキル」をきちんと教えているか
探究学習は、問題解決のプロセスである。基礎的なノウハウやスキルはきちんと教える。それらの**スキルを身に付けることが資質・能力を向上させることにつながる**。
- ③ 図書館の活用方法を学び、図書館をフルに活用しているか
学校の中で一番情報が豊富で、書き方や表現方法なども詰まっている「**図書館**」の活用方法を学び、**図書館という場をフルに活用した「情報の収集」**を行う。
- ④ デジタルとアナログを、うまくバランス取りながら活用しているか
自分の頭で考える前に安易にネット検索に依存すると、作業プロセスの思考過程が飛ばされ、思考力の向上を妨げることになる。整理分析、まとめの段階でも同様。
- ⑤ 学習活動に「フィールドワーク」を取り入れているか
フィールドワークとは現地・現場での調査・研究のこと。「課題の設定」「情報の収集」の場面においても教室から外に出て、**実際に目で見て実態に即した情報を集める**。



ポートフォリオ評価

○どのような活動をしたか ○その活動をするときに、どんな疑問をもったか ○その活動を通して、どのようなことを解決しようと思ったか ○どんなことをどうやって調べたか ○調べてわかったことは何か ○さらに調べたくなったことは何か ○さらに調べてわかったことは何か ○調べたことから、どんなことを考えたか ○みんなに聞いてもらいたい事は何か